

# 都市計画コンサルタントの 今とこれから

一般社団法人

都市計画コンサルタント協会

協会ビジョン

2023



# 今とこれから 都市計画コンサルタントの

みなさんは「都市計画コンサルタント」という職業があることをご存じでしょうか？ 日々みなさんが暮らしている都市をより良いものにするため、調査や分析を行って課題を見つけ、それを解決するための政策の立案や企画・計画の策定、空間のデザインや仕組みの提案を行ったりする仕事です。この説明だけでは、どんな仕事なのか、ちょっと想像しにくいかも知れません。

「持続可能な都市ってどんなものだろう」、「日々進化する技術を暮らしの豊かさに活かすには、どうすればいいの」、「元気をなくしたまちに、再び活力をもたらしたい」など、この仕事には数えきれないほどのテーマがあります。そして、社会が急速に変化するこの時代には、取り組むべきテーマも次々に新しいものへと変わっていきます。

そんな中で私たちには一体何ができるのか、日々悩み、奮闘し模索を続けています。まちを通して社会につながり、少しでも良くすることにマトモに向き合う、とてもやりがいのある仕事ですが、残念なことに、あまり多くの人に知られていません。

この冊子は、私たちの仕事がどのようなもので、未来に向かってどんな風が変わっていきこうとしているのか、その一端をご紹介しますものです。手に取って見ていただき、この仕事に興味を持ってもらえたら、うれしいかぎりです。

目次

## 1

### 都市計画 コンサルタントって 何だ？ ……02

- 04 しごと〈ワークスタイル〉×ひと〈キャリア〉  
都市計画コンサルタント図鑑
- 08 都市計画コンサルタントは  
どこでどのように活躍している？



一般社団法人  
都市計画コンサルタント協会  
協会ビジョン  
2023

# 2



## 『都市計画』の これまでとこれから .....10

- 12 都市計画が果たしてきた役割、  
培ってきた技術
- 14 未来を拓く都市計画—1  
礎となる考え方、役割や技術、テーマの拡がり
- 16 未来を拓く都市計画—2  
これからの都市計画で議論すべきこと
- 18 求められている  
都市計画コンサルタント像



# 3

## これからの 都市計画 コンサルタント協会 .....20

- 21 都市計画コンサルタント協会の役割と  
今後の運営のあり方
- 22 都市計画コンサルタント協会が  
今後重視する6つの活動
- 24 奥付・インフォメーション



# 都市計画 1 コンサルタントって何だ？

まちと人が好きだから  
ずっと取り組み続けることが  
できる仕事です



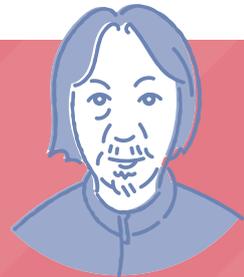
都市構造分析・  
都市防災計画(53歳)

市民、行政、民間事業者、  
それぞれの「まちづくり」への思いを  
くみ取り、繋ぎ合わせ、最適なプランを  
提案していく仕事です



市街地整備計画・  
土地区画整理事業計画(37歳)

よき市民としての資質と  
2.5人称の視点が  
求められます



土地利用計画・  
都市・景観デザイン(57歳)

正解はだれも知らない、  
街ごとにオーダーメイド、  
簡単じゃない  
……だから面白い



都市マスタープラン・  
土地利用計画(48歳)

都市計画は、持続可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし、生活の安定的持続と質の向上、都市活力の維持増進を目標としています。その役割は、時代、社会の変化に応じて変化し、従来の都市空間の分析とプランニングにとどまらず、持続可能な社会を目指す幅広い分野の取組との連携とその仕組みづくり、活動支援やそのマネジメント・プロデュースにまで広がっています。

都市計画コンサルタント（あるいは都市プランナーともいう）は、都市計画に関する企画・調査・計画立案などのさまざまな業務を、官公庁・民間企業・土地建物所有者・住民（団体）などから委託されて行なう専門家（個人）または実務専門家集団（組織）のことで。

まちをデザインする、  
即ちまちの将来を左右する仕事。  
だから、覚悟と根性が必要な仕事。  
生半可な思いでは出来ないし、  
決してカッコいい仕事じゃないよ



コミュニティデザイン・  
施設整備計画 (49歳)

街を読み解き、暮らす人々の声を聴き、  
プランを描き、戦略を立て、  
実践を支援する……  
すべての段階に関われる仕事

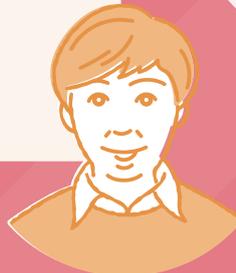


地区まちづくり支援・  
団地再生・防災まちづくり  
(48歳)

実は女性向きな職業だと思う理由 3選

- ①力仕事が少ない
- ②子育てに時間を取られる時でも  
続けやすい
- ③日頃のコミュカを活かせる

新しいまちをつくる時、  
実は陰で  
コーディネートしている  
のは私たち



都市政策・総合計画・  
景観計画 (48歳)



都市計画マスタープラン・  
立地適正化計画・  
地域公共交通計画 (40歳)

都市計画・まちづくりの  
専門家として  
“ヒト・コト・モノ”を繋ぐ仕事



交通計画・  
市街地整備計画 (30歳)

まちの豊かな空間や持続可能な  
社会基盤をデザインしたりして、  
ひとと暮らし、都市の様々な活動を繋ぐ  
触媒のような役割を果たしている



都市計画マスタープラン・  
まち・まちづくりのビジョン・  
土地利用(規制誘導) (54歳)

# しごと〈ワークスタイル〉×ひと〈キャリア〉

## 都市計画コンサルタント図鑑

都市の未来像を描き、デザインする。プロジェクトを動かし、ヒト、コト、モノの動きをマネジメントする、つなぐ。都市計画コンサルタントの多種多様なしごとをご紹介します。



### 都市の未来像を描く

- 都市のマスタープラン
- まちづくり構想
- 公共建築の設計支援



### 都市の空間・システムをデザインする

- 都市・建築・空間デザイン
- 交通政策・モビリティデザイン
- 環境・エネルギーデザイン
- 都市景観
- ランドスケープ



### 都市のプロジェクトを動かす

- 土地区画整理
- 市街地再開発
- 都市開発・都市再生



### まちをマネジメントする

- エリアマネジメント
- まちづくり事業
- 公共空間活用
- リノベーション
- シェアリングエコノミー
- 都市分析
- DX



### ひととまちをつなぐ

- 地域活性化
- コミュニティデザイン
- 官民連携まちづくり
- コーディネート・ファシリテート

## 個性的で多様性に富む一人ひとりが担う都市計画コンサルタントのしごと

行政が定める都市計画・まちづくりの構想・計画や土地利用の制限などの都市計画法の運用、都市・地域で行われている様々な開発や事業、活動などの多くの場面で、都市計画コンサルタントが関わっています。

都市の未来像を描いた構想・計画をつくって地域全体で共有すること。建築物と居心地の良いひとと中心の空間、

移動しやすい交通システム、効率的なエネルギー基盤などをデザインすること。公共・民間の様々な利害を調整して大きなプロジェクトを動かすこと。都市の様々なニーズやひとの動きを分析し、まちにあるたくさんの空間を最適に活用できるようマネジメントすること。様々なひと・組織をつなげて地域の創造的な活動を広げていくこと。

時にはプランナー、時にはコーディネーター、時には伴走者・黒子役となる、都市計画コンサルタントの様々なしごとの一端をご紹介します。



## 都市の未来像を描く

# 大小様々なスケールで 都市を考え、計画する

- 都市のマスタープラン
- まちづくり構想
- 公共建築の設計支援

コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画の施策の全体像



厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画で構想した都市のあり方と各地での施策。南側の中心市街地と北側の郊外に指のように伸びる居住地を結ぶ公共交通軸を強化し、各地の生活利便性を高めることを計画しました。

郊外住宅地の将来像



厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画で、構想した都市のあり方を具体的にイメージし、共有できるように、各地の将来像をイラストで示した例。

市民と一っしょに考えるワークショップ



こうした計画づくりでは、市民とともに計画を考えるワークショップを開催することも多く、様々な意見を取り入れることができます。（写真は他都市での実施例）

以前はコミュニティ施策等の公共政策や公共建築の計画を業務領域としていました。都市計画コンサルタントになって以降は、これらに加え、都市計画マスタープランや立地適正化計画の立案、街区単位のプランニングに携わっています。結果として、市域全体から地区・街区、建物に至る大小様々なスケールでまちづくりに参画するようになってきました。

令和2年度に担当した厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画は、特に、様々なスケールで考え、計画する機会でした。この計画は、コンパクト・プラス・ネットワーク型都市づくりのための立地適正化計画と、地域公共交通網を維持・充実する地域公共交通計画を一体化した計画です。このような計画は数多く策定されていますが、一体化した例はまれです。しかし、既存住宅地の維持と利便性の高い公共交通の両立によるコンパクト化は、都市的な土地利用がなされている自治体では効果的と言えます。厚木市が打ち出したこのユニークな方針に基づき、人口密度の将来推移や交通網というマクロな視点での分析と、主要居住エリアにおける生活機能の立地や交通利便性、災害リスクなどのミクロな視点での分析を合わせることで、未来の暮らしぶりを想像しながら都市のあり方を構想・計画しました。結果として、都市機能を誘導する区域と居住を誘導する区域のほか、公共交通の利便性を強化する路線、郊外での生活利便性を高める地域生活拠点を一体で設定し、階層化されつつ連結された都市構造を構想することができました。

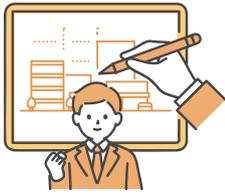
今後も厚木市の業務のように様々なスケールで都市を分析することで、都市のあり方を構想したいと思っています。もちろん、実際に都市を歩き、ときには飲食を楽しむことで身体を通して都市を把握したり、住民の声に耳を傾けることも忘れることなく、ですが。



### 氏原茂将

株式会社国際開発コンサルタンツ

近年は厚木市の業務の他、横浜市、小田原市、栃木市等で都市計画マスタープランや立地適正化計画の立案、千葉市での都市計画道路計画における住民協議支援、小千谷市や富谷市での図書館建設の支援にも携わっている。



## 都市の空間・システムをデザインする まちづくりの デジタルソリューション

### ● 都市・建築・空間デザイン

EBPM※が重要視される昨今、都市の3D可視化技術や動的データを含む高度な分析技術の活用による都市DXの実現がクローズアップされています。私たち都市計画コンサルタントは、Project PLATEAU（国土交通省）に代表される3D都市モデルを用いて、都市空間のデザインをシミュレーションし、将来像を可視化しながらエンドユーザーとの協働によるまちづくりを進めるとともに、デジタルツインによる災害シミュレーションや人流・日射量解析等を実装しながら、都市プランナー或いはプロジェクトマネージャーとして、より良い社会の実現を目指しています。

※Evidence-based Policy Makingの略 エビデンス(証拠)に基づく政策立案



#### 沼川滋彦

株式会社バスコ九州事業部技術センター

ゼネコン設計部を経て現在の都市計画コンサルタント職に従事。建築・都市計画、防災等多種多様なまちづくり計画の分野に身を置きながら、G空間情報やICT技術を活用した実証等の実績も多数。

#### 都市空間デザインのデジタルソリューション



通信キャリアやメーカーとも協業しながら高度なデータ解析やシミュレーションを行い、デジタル技術を活用した都市空間デザインに取り組んでいます。

#### 3D都市モデルを活用したまちづくり分析



①ダウンゾーニング(容積率充足度) ②道路・隣地斜線 ③日影・通風 ④地価と下落率 ⑤自動走行 ⑥太陽光発電量 ⑦浸水想定 ⑧防犯・セキュリティ(可視範囲)



## 都市のプロジェクトを動かす “共感”を軸にした、 私たちの時代の 都市づくり

### ● 都市再生・都市開発

#### 実証実験「水戸まちなかりビング作戦 2021」のシーン



未来ビジョン案を体現したロゴ、水戸まちなかに映えるカラースキームから成るデザインガイドラインを発行しました。実験期間中に生まれた市民活動に一体感が醸成されました。

人口減少・低成長時代のテーマを象徴する地方都市の都市づくりでは、限りあるリソースで波及効果を最大化する手法を見出すことは常に困難な挑戦となりますが、突破する鍵になるのが“共感”にあると考えています。

茨城県水戸市における市街地再生では、多角的分析に基づく“水戸らしさ”と、地元若手の想いからウォークアブルな未来ビジョン案を導き、“個人的共感者”を募るオープンプラットフォームを組成しました。ビジョンの妥当性検証を目的とした実証実験では、点在する滞在空間をストリートサインで繋ぎ、人のための居場所作りを低予算で実現しています。会期終了後も約半数の会場が残置され日常に溶け込み、一部は民間ビルオーナーにより事業化されました。地域固有の骨太なビジョンで人々の共感を集め、デザインによって可視化し空間に置き換えることで、共感は拡大していきます。

#### 中山佳子

株式会社日本設計 プロジェクトデザイン群 主管  
明星大学 非常勤講師



建築・都市・グラフィック領域におけるスケール横断的なデザインとディレクションを通じ、事業課題や社会課題解決を目指す。2011年横浜国立大学大学院Y-GSA建築都市スクール修了、日本設計入社。



## まちをマネジメントする 多様な主体が都市を支える 仕組み・体制づくり

● エリアマネジメント ● リノベーション

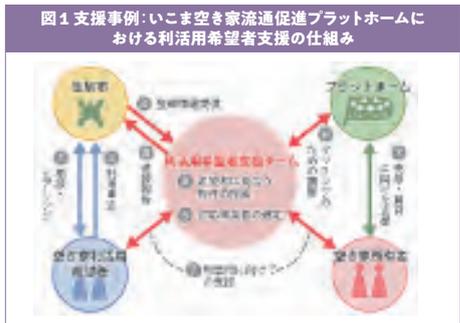
昨今、ビジョン実現に向けたエリアマネジメント体制の構築・高度化が重要視されています。これまでの実績として、不動産流通に関する専門家47社が行政と連携してワンストップで支援するプラットフォーム組織「いこま空き家流通促進プラットフォーム」の高度化促進・自立性向上等を支援しました（奈良県生駒市）。空き家問題の解決においては、多分野の主体がビジョンを共有しながら連携し、都市全体で支援する生駒市のような取組（図2 赤色部分）が今後期待されます。マネジメント分野の仕事では、リソース（空間・主体等）やそれらの関係性を見極めながら仕組み・体制づくりを整えることがコンサルタントには求められると考えます。



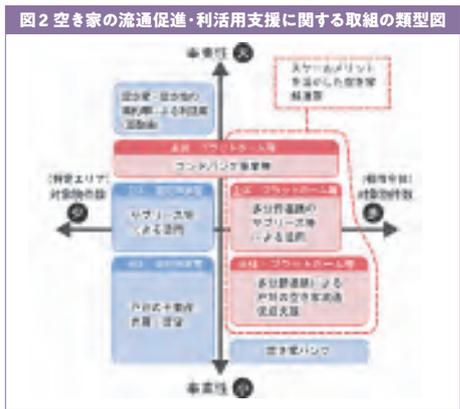
**白石将生**

昭和株式会社 関西開発室 副室長

2007年 昭和(株)入社。主に都市計画マスタープランや立地適正化計画などの都市計画に関連する策定業務、まちづくりやエリアマネジメントに関する支援業務に従事。共著書に「小さな空間から都市をプランニングする」(2019、学芸出版社)



生駒市の業務では、プラットフォームのコンサルティング力向上に向けた支援の他、空き家活用希望者の受け皿を兼ねる仕組みづくり(体制・コンセプトづくり)を支援



## ひととまちをつなぐ ひと・水・緑の エリア マネジメント

● コミュニティデザイン ● コーディネート・ファシリテート

埼玉県越谷市の「越谷レイクタウン地区」は、「親水文化創造都市」をまちづくりのコンセプトに、UR都市機構により特定土地区画整理事業として市街地と河川調節地が一体的に整備され、ニュータウンの中に約40haの広大な水辺が誕生しました。この水辺の利活用と管理を一体的に地域に委ねて行く試みが計画段階から試行されました。「水と緑の懇談会」を舞台にワークショップを重ね、新しい市民団体「NPO法人越谷ふるさとプロジェクト」が組成されました。平成20年4月のまちびらき以降は、市民団体、民間事業者、行政が一体となって、様々な利活用の活動が隆盛しています。組織の組成や運営支援に長く携わってきた立場から見てもとても感慨深いです。



昨今の都市計画コンサルタントに求められることは、単なるまちづくりのモノに関わる合意形成の支援を超えて、自らコトを生み出し動かす中で、ヒトをコーディネートし組織の誕生の背中を押し、マチの経営:マネジメントを担うことまで至っています。こうしたジェネレーター型のコンサル像が益々重要となっています。



**高橋和嗣**

株式会社URリンクエッジ 都市整備本部 都市環境室 担当部長

一貫してまちづくり・都市計画におけるランドスケープ空間の調査・計画・設計・管理運営に携わる。またそれらから派生した住民参加、官民連携、コミュニティデザイン等の業務実績も多数。

# 都市計画コンサルタントは どこでどのように活躍している？

都市計画コンサルタントとは、文字通り「都市計画」を専門に活動する「コンサルタント」です。「都市計画」に関わる多くの分野・主体の中で、「都市計画コンサルタント」が、どのように活動しているかをご紹介します。

## 「都市計画コンサルタント」とは、 どこでどんなことをする職業か

都市計画コンサルタントは、都市計画という分野・領域において、専門的な知識と技術をもって調査・分析・企画・計画・設計等に携わる専門家です。都市全体の長期的な将来像の計画や、道路や公園などの公共施設の計画、都市開発・再開発プロジェクトの企画・調査・計画立案、市場調査・経営分析・影響評価など、さまざまな業務があり、政府や地方自治体、民間企業、土地建物所有者（組合）、住民（団体）などから委託されてこれらの業務に従事します。

都市計画コンサルタントは、都市計画を専業とする会社・個人事務所だけでなく、建設コンサルタント、建築設計事務所、測量会社、シンクタンク等の企業の都市計画担当チームでも働いていますが、共通しているのは、都市計画を扱う専門業であり、民間の組織にありながら中立・公平な立場で活動していることです。また、その仕事は、住民をはじめとする都市の活動主体に安全性・快適性・利便性を提供するだけでなく、時代や環境が変化する中でも持続可能な都市を立案する必要があるため、広範な知識や高度な技術が要求されます。

また、都市計画コンサルタントは、都市計画分野の学識経験者や行政の都市計画担当者のほか、民間デベロッパーやまちづくり運営組織、さらには関連する外部分野の専門家など、都市計画に関わる多くの専門家や組織とも連携しながら活動しています。

都市計画コンサルタントが活躍する場は、特定の都市や特定の事業だけに限定されるのではなく、全国のあらゆる都市に広がっており、都市の空間と活動のデザインやマネジメントを支えています。



## 都市計画コンサルタントの 特性と特徴



### 行政、大学、住民、事業者 と連携して活動する

都市計画コンサルタントは、法定計画や公共事業全般を担う行政組織、専門的知識から助言・支援を行う大学等の学識経験者、特定の目的をもって活動するNPO 団体、地域のまちづくりの担い手として活動する住民や事業者など、多様な主体と連携を取りながら活動しています。また、職業ができた当初は、行政の発意によりその委託を受けて活動することがほとんどでしたが、現在では、地元発意型の業務や住民等からの相談業務、民間企業発注の業務など、その業務における立場も多様化しています。



### 中立・公平な立場で 活動する

都市計画コンサルタントは、行政や民間など多様な主体から業務を依頼される存在です。それぞれのケースにおいて依頼者を支援する立場にありながらも、常に中立・公平な視点から、都市のあり方を考えるのも都市計画コンサルタントの特徴です。計画の対象が公共性の高いものであることを考慮し、計画された都市で活動する多様な人の存在を意識しながら、計画立案、空間設計、事業スキーム構築、まちのマネジメントといった幅広い活動を展開しています。



### 技術の専門性

社会や環境に大きな影響を与える都市計画を扱う技術者であるために、都市計画コンサルタントには、その一人一人に対して、高度な専門技術、豊富な実務経験、業務に対する倫理性が求められます。また、都市計画を通じて社会・地域に貢献するためには、広範な領域にわたる都市計画技術の継続的な習得・研鑽が必要であり、都市計画の対象領域の拡大に合わせて、要求される技術や知識もさらに拡大しつつあります。



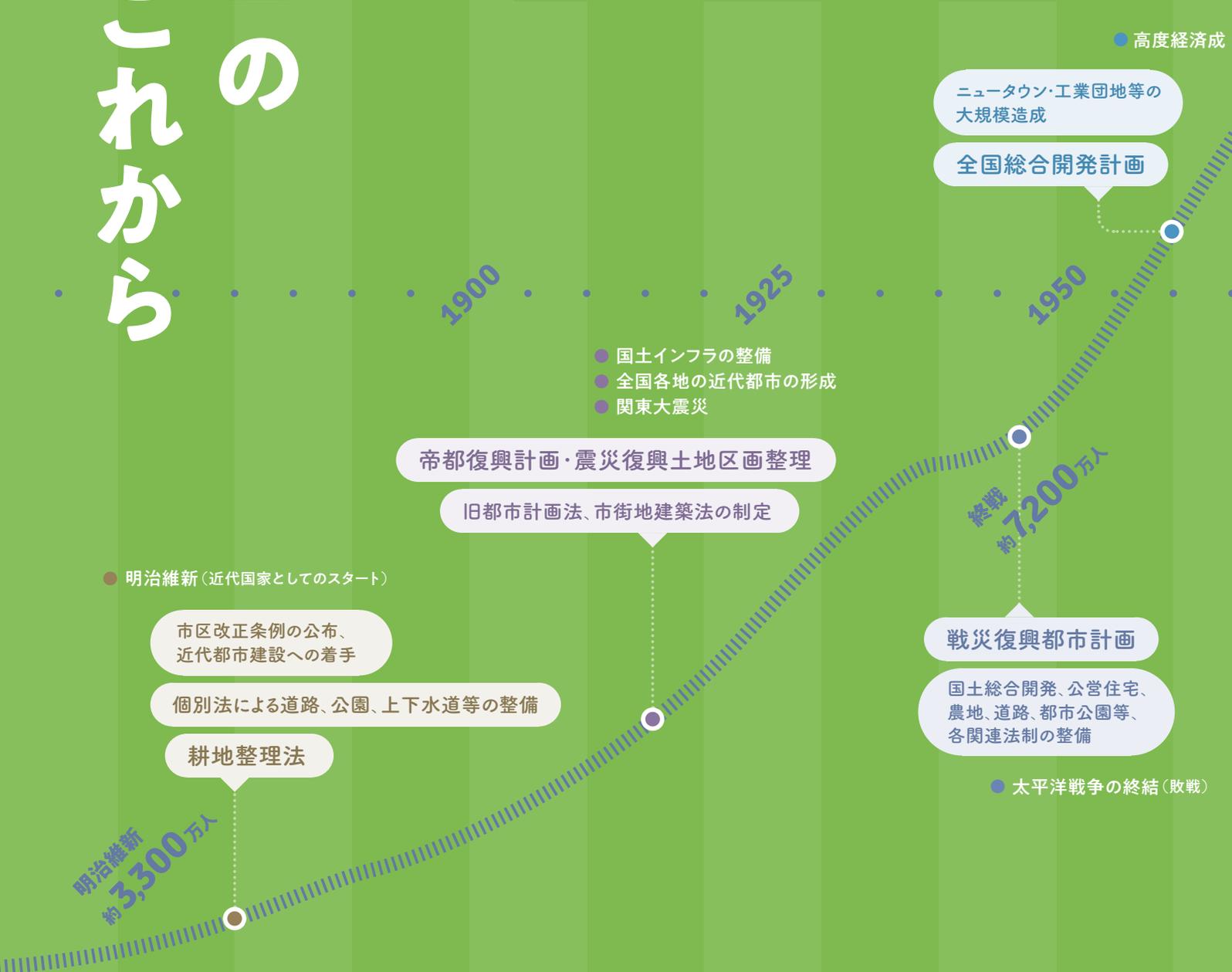
# 『都市計画』の 2 これまでとこれから

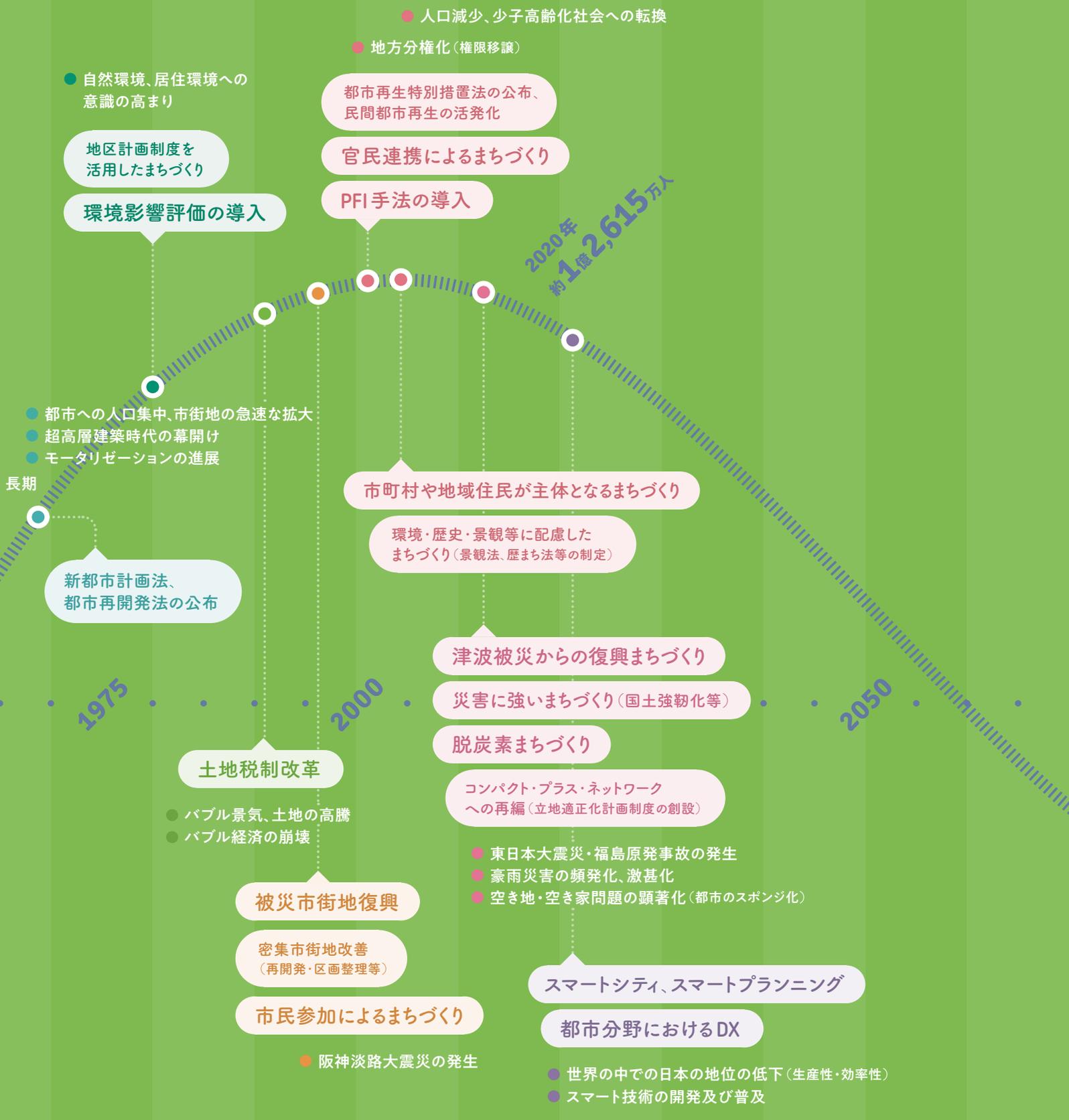
我が国の近代的な都市計画は、明治維新後の近代都市の建設からスタートし、道路、公園、下水道等の都市インフラの整備、鉄道、河川、港湾等の国土インフラの整備が進められました。

戦後の復興を経て、高度経済成長期には、急速な人口増加と都市化に対応して、ニュータウンや工業団地などの大規模開発が行われたほか、都市計画法に基づく土地利用規制や建築制限等がきめ細かく行われるようになりました。

また、国や都道府県から市町村への都市計画権限の移譲、住民参加型まちづくりの普及により、都市や地域の特性・特徴を踏まえた計画策定や制度運用が行われるようになりました。

人口減少時代を迎えた現在では、計画的に都市の再生とコンパクト化を進め、民間活力やDX等を活用しながら、安全で質の高い都市空間を維持することが重要テーマとなっています。





## 人口の推移とその影響

我が国の人口は、明治維新の頃は約3,300万人程度でしたが、その後約130年の間にピークとなる12,800万人にまで増加しました。しかし、今後は急速に人口減少が進み、2100年頃には明治維新の頃の人口規模に戻っていくとも予測されています。過去から未来にわたるこうした人口の推移は、都市の空間や活動にも大きな影響を与えるため、都市計画に求められる役割も、過去から未来に向かってさらに変化していきます。

※この頁に記載するできごとは、概ねの年代を示したもので、正確な時期を示すものではありません。

# 都市計画が果たしてきた役割、 培ってきた技術

都市計画は、都市の成長と発展、またはその過程で顕在化してきた都市問題に対応し、特有の技術を培ってきました。こうした技術の中には、これからの様々な社会課題への対応に応用できるものもあり、都市計画の役割はますます広がっていくものと考えられます。

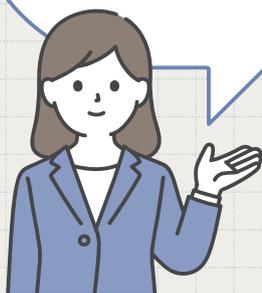
## 都市計画が 果たしてきた 役割



### 都市の課題や解決策の 方向性を明らかにする

将来の趨勢を予測し、多様な視点(虫の目～鳥の目)から、都市課題やその解決策の方向性を明らかにする。

## 都市計画が 培ってきた 技術



### 都市の実態を把握し 分析する技術

複雑に絡み合う要素を整理・分析し、多面的な都市の現状や実態を把握する技術。



### 人々の多様な思いを 総合化する技術

多様な立場、属性、価値観を持つ人々の思いを受け止め、調整し、総合化する技術。

## 都市の〔空間〕と〔活動〕を一体的に捉え、 まちの魅力や都市活動を支えてきた都市計画

都市計画は、魅力的な都市空間の中で、質の高い生活が営まれ、さまざまな活動が創造的・活発に展開されているなど、都市が目指す状態（目標像）を将来ビジョンとして描く役割を果たしてきました。加えて都市計画には、対象とする範囲に応じて、都市や地域、地区、敷地などの単位で求められる「空間」と「活動」の具体的なあり方を示し、将来ビジョンを実現していくための道筋を示すなどの

重要な役割があります。

近年では、その道筋に沿って実際に生まれた空間を維持管理・活用したり、動き始めた活動をさらに発展させていくなど、「つくる」だけでなく、将来にわたって継続的に「質を高めていく」マネジメントの役割も果たすようになってきています。

こうした役割を果たす過程の中で、都市計画は、都市の分析や多様なひとの思いの総合化、社会的課題への変化への対応、将来像を描き実現の方策を具体化するなど、社会で様々な応用できる技術を培っています。



### 将来ビジョンをつくる

一人ひとりが抱く将来の思いを「全体で共有できる思い」へと総合化し、都市が目指すビジョンを提示する。



### 将来ビジョンの実現への道筋をつくる

社会変化に対応しながらビジョン実現の方針・仕組みをつくり、政策や施策、事業などの方策を具体化する。



### 将来ビジョンの実現を支える

まちの魅力的な空間の維持管理や、空間活用で人々の行動変容を促す活動を展開するなどのマネジメントを行う。



### 変化に継続的に 対応していく技術

社会や都市の実態や課題の変化、都市計画技術の進化に柔軟に対応していく技術。



### 将来像をイメージできる 表現として描く技術

言葉やビジュアルな表現で、将来像をイメージしやすく、共感できるようにする技術。



### 将来像の実現方法を 具体化する技術

将来像実現のための整備計画や建築・開発の規制・誘導方針の策定、制度設計などの技術。

# 未来を拓く都市計画—1

## 礎となる考え方、役割や技術、テーマの拡がり

都市計画は、長期的視点で将来像を描き、空間をつくる役割・技術を根幹としています。  
その領域は社会の様々な課題やニーズに対応して拡がりを見せており、  
様々な分野の取組みをつなぎ、都市活動の多様な花を咲かせる  
「大きな樹木」に例えることができます。

### 都市計画の礎となる考え方と根幹となる役割・技術

～これまでも、これからも～

都市計画は、目先の変化に翻弄されない「時間軸」を意識して、長期的視点を持ち、特定の立場での利益に偏らない「公共の福祉」を目的とした法制度運用や活動を展開する姿勢・価値観を礎としています。

そして、広域・地域の将来像を描き、土地利用や市街地開発事業、交通、都市施設など、空間や施設をつくる（整備・誘導する）役割・技術を根幹としながら、環境、防災、水と緑、景観、歴史文化、地域の再生・活性化、公共施設再編など、地域課題に対応した多分野の連携（中間領域の計画）を展開しています。

#### 新しい時代・社会に求められる 都市計画の「拡がり」と「動き」

新たな時代に対応して、都市計画には、従来のフィジカルなプランニングから、持続可能な社会を目指す幅広い分野の連携と仕組みづくり、活動支援・プロデュースなどの役割が求められています。

#### “テーマのさらなる拡がり”

- 多分野連携・多主体連携のコアとなる都市分析と将来ビジョン・戦略の立案（ひと・生活の質（QOL）を基本としたソーシャルプランへ）
- 時代、地域ごとに異なる具体的な課題に対応したまちづくり
- 他分野連携や様々な専門家等との連携・コーディネート（脱炭素、健康・医療・福祉など社会課題への対応）（スマートシティ、エリアマネジメント、コミュニティデザイン、リノベーション、まちづくりDXなどの都市活動の支援・プロデュース）

#### “加速する変化への能動的な対応 脱固定的な都市計画へ”

- ビッグデータ等による空間と活動のモニタリングと継続的なマネジメント
- 小さな空間の活動や事業と連動して、まちの暮らしや文化を豊かにする「場（place）」のプロデュース

ウェル  
ビーイング

担い手の  
発掘・育成

居場所  
づくり

コミュニティ  
デザイン

健康医  
まち

ウォ  
のま

交  
まち

防犯  
まちづく



# 未来を拓く都市計画—2

## これからの都市計画で議論すべきこと

これからの都市計画は他分野と関わりを持ち、広い視野で進めていくことが求められています。このような視点から「今後、都市計画コンサルタントは何を意識し、行動すべきか?、期待すること」を議論するシンポジウムを開催しました。

### 都市計画コンサルタントの「未来を描くシンポジウム」

本シンポジウムでは、今後さらに連携を深めていくと考えられるランドスケープ、環境・エネルギー、IT・情報、福祉の分野で活躍するパネリストをお迎えし、「今後、都市計画コンサルタントは何を意識し、どのように行動すべきか?、期待すること」をテーマに、今後の行動につなげていくことをねらいとして、様々な視点から議論を深めました。

都市計画コンサルタントの  
『未来を描くシンポジウム』  
これからの時代の都市計画コンサルタント  
開催日:2022年11月29日(火)  
会場:アーツ千代田3331

中島:コンサルタントは、まちなかで一緒になって価値を開拓、導いていく官民連携のプロデューサー=ジェネレーターも必要

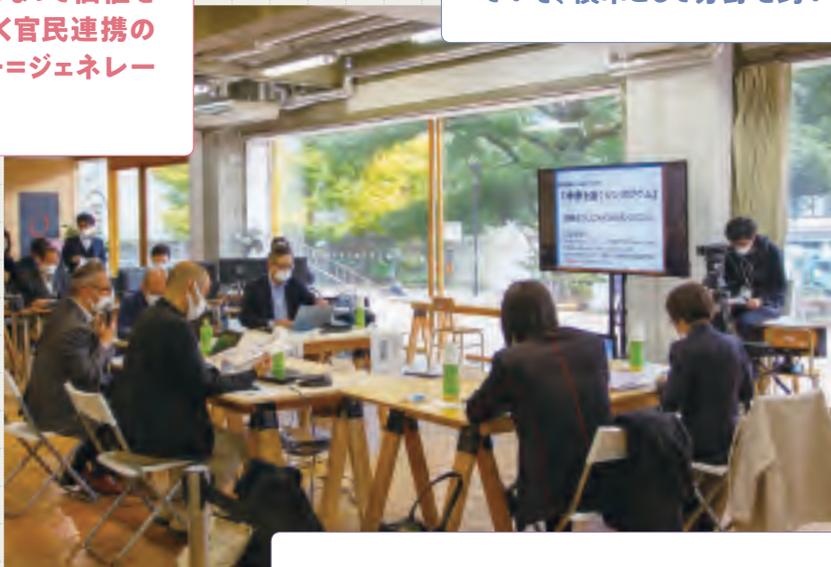


中島直人氏  
東京大学工学部  
都市工学科 准教授

萩野:グリーンインフラを都市計画のなかに組み込んでいき、横串として分野を跨いだ連携を図っていく



萩野一彦氏  
株式会社ランドプランニング  
代表取締役



東博暢氏  
株式会社日本総合研究所  
研究員



河野有吾氏  
株式会社エックス都市研究所  
主席研究員

河野:地域の特性に則したQOLを確保した脱炭素社会の都市のあり方を一緒に考え、作成し実現する

東:コンサルは場づくり、活動をつくる専門性を活かして分野横断、複合領域のことができる能力を境界をこえて発揮していく



半田幸子氏  
生活構造研究所  
代表取締役研究主幹

半田:ウェルビーイングをどう作っていくか、福祉を地域の社会デザイン、フィジカルに落とし込むため、福祉との重なり合い部分をお互いに考えていく

## ディスカッションでの主なキーワード・内容

### テーマ1 今後の都市計画で重要な論点(役割・技術など)

#### “グリーンインフラ”

- グリーンインフラからまちを考え、人間行動を都市計画のなかに組み込んでいく
- グリーンインフラは都市形成の横串となるもので福祉を含め分野を跨いだ連携が必要

#### “Well-being (ウェルビーイング)”

- 課題として、コミュニティを含めた福祉機能を予測しながら地域の社会デザイン、フィジカル空間に落とし込んでいく
- 都市計画がもつ技術、データ、手法、制度の共有化や福祉との重なり合い部分をお互いに考えていくこと

#### “脱炭素のまちづくり”

- まちづくり側が地域内循環させるエネルギーをどう使うかセットで考えないと脱炭素のまちづくりはできない

#### “テクノロジー、DX、コロナなどの対応が都市計画として大事”

- 世代によって異なる生活・暮らしをどうみていくか、技術だけでない共助の仕組みなど世代間をきめ細かくみていくプランニング
- デジタル、福祉、グリーン、エネルギーがあるとどんな街になるか、データで見ながら複合的に議論していく

### テーマ2 今後の都市計画コンサルタントに求められる立場・役割

#### “創造型ジェネレーター”の役割”

- 他分野の専門家と連携しながら、自然に物事が生まれてくるような価値を開拓し、導いていく

#### “コンサル自身の多様性と、多様な担い手”

- 計画立案だけでは動かない、人を観察しながらまちにどんな機能が必要か、コトをおこす、動かす、インフォーマルな活動の場づくり
- ものごとの事実と理論を総合的に統括するアーキテクトチームが必要

#### “まちづくり、技術分野における男女共同参画の視点”

#### “ボーダーレスに関わる”

- 境界を超える人たちが重要、都市計画家はいろんなまちをみているので、いろんな領域を超えられる、超えていき動き回る
- 場づくり、活動をつくる専門性を活かして分野横断、複合領域をコンサルできる能力を境界を超えて発揮

#### “経済・財政がまわる持続可能なモデルの提案”

#### “柔軟に変化できるまちづくり”

- 都市のゾーニングにあわせて暮らしをつくってきたが、ジェネレーションギャップのなかで、作り込みすぎない、余白や遊びを残すなど柔軟に変化できるまちづくり

## グラレコライターによる意見のまとめイメージ

シンポジウムでは、まちづくりコーディネーター兼絵師の林匡宏さんに議論を踏まえ、これからの都市計画コンサルタントの未来の姿を描いてもらいました。絵の左側が現状の社会をあらわし、右上に向かってこれから目指す暮らしのイメージを映し出しています。一貫して通じているのはグリーンインフラで、緑がいろんな役割を果たしています。



絵のなかに帽子とタスキをかけているのがコンサルタントです。専門家でありながら一般の人と溶け込み、一緒になって楽しみながら未来のまちを思い描き、仕組みをつくっていることを表しています。是非、コンサルタントの活動のようすを探し、想像してみてください。



林 匡宏氏

絵師・まちづくりコーディネーター

# 求められている

## 都市計画コンサルタント像

都市計画コンサルタントは、社会動向、社会情勢等の時代の要請にこたえて、より一層の多様な専門性と多様な立場で対応できる能力を備え、活躍する場を創出していくことが必要です。

期待される都市計画  
コンサルタント像とは

多様な主体を  
サポートする  
“官民連携伴走型”  
の専門家

都市や生活、環境などの空間計画をベースに、幅広い分野と関係づける技術を磨きながら、都市や地域が目指す将来像の実現に向け、多様な主体をつなぎ・寄り添ってサポート。

周囲を巻き込んで  
一緒に成し遂げていく  
“ジェネレーター型”  
の専門家

自らが地域に入り込み、多様な主体と一緒に楽しみながら創造と探求を進め、周囲を巻き込んで刺激・誘発しながら、みんなで計画・行動を成し遂げていく。

都市計画・まちづくりを  
推進・支援する  
“ホームドクター型”  
の専門家

様々な発注者からの要請を受けて、都市・まちの課題解決や目標実現に向けて、高度な調査・企画・立案、設計等を請け負う。

都市計画の領域を  
切り拓く  
“プロデューサー型”  
の専門家

多様な主体や他分野の専門家等と連携しながら、時代のニーズに対応した技術を開発し、3次元の空間計画のプランニング、新たな都市空間のデザインを提案、マネジメントする。

### 期待される 都市計画コンサルタント像とは

コンサルタントは、社会課題や生活の質の向上など、取り組むべき業務シーズは数多くあります。多様な専門技術者の能力や活動の場を活かして、自ら提案・発信し、能動的に活躍する場を創出していくことが必要です。

これから期待される都市計画コンサルタント像には、上記に示す“官民連携伴走型”、“ジェネレーター型”、“ホームドクター型”、“プロデューサー型”のように、多様な専門性と役割があります。

これらを発揮するため、都市計画コンサルタント「個人」にも右記に示すように様々な姿勢や能力が求められます。

## 都市計画コンサルタントの「個人」にも求められるもの

### 社会全体への 貢献



コンサルタントは、行政だけでなく地域住民や民間などの諸主体との多面的な関係のなかで複眼的に要請に応えることが必要です。コンサルタント自身が市民として社会に帰属している意識を持ち、社会全体の様々な分野へ貢献していく姿勢が必要です。

### 高度な知識・技術の 習得、研鑽



デジタル社会に対応した専門分野の技術・開発力が求められてきているなか、フィジカルプランを含め高度な知識や技術、発想力をもつ「スペシャリスト」の役割が大事となっています。個人の能力を高めていく姿勢、得意とする能力を磨く姿勢、常に能力を高め続ける姿勢が求められます。

### 柔軟な調整能力や 統合化するマネジメント力

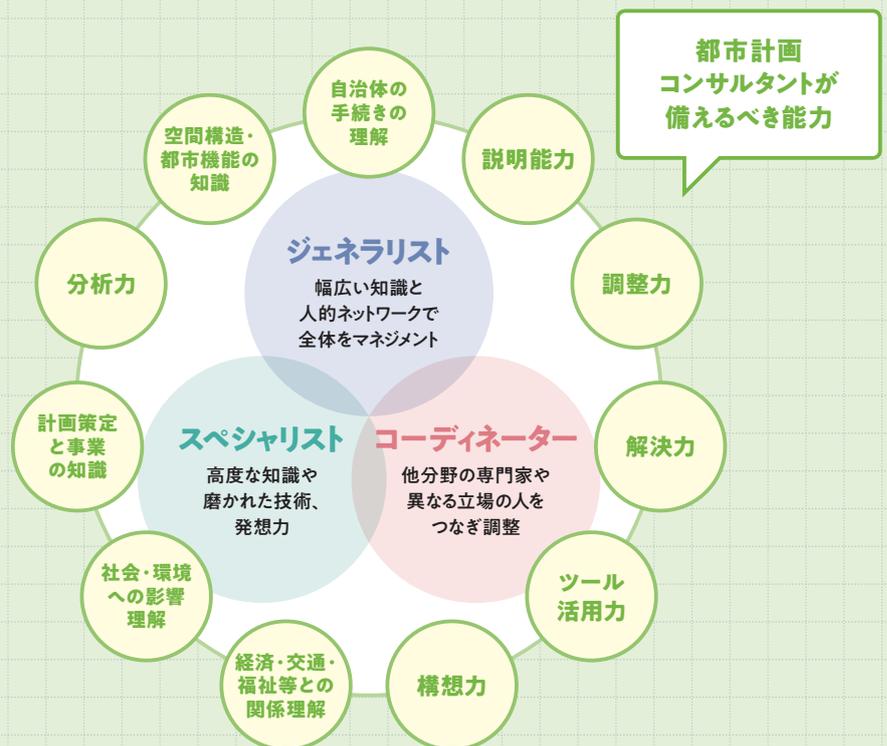


複雑化する都市の課題に対応しながら、都市が目指す将来像を実現するには、様々な主体や事業を関係づけ調整する「コーディネーター」の役割や、計画・事業の監理・運営のサポート、住民等の議論や意思決定の支援などを行う「ジェネラリスト」の役割が重要となります。このような役割を果たすには、高度な知識や技術をもった上で、柔軟な調整能力や、要素を統合して方向性を示すマネジメント力を併せ持つことが求められます。



### 技術や経験などの ノウハウの継承

社会問題が複雑化する中で、求められる知識や技術は多様化してきており、新たな知識や技術はその都度身に付けていくこととなります。そこでは都市と向き合う姿勢、課題を解決する姿勢、常に提案し続ける姿勢、学び続ける姿勢が必要とされ、そのあるべき姿を、熟練者が若手に伝えていくことが求められます。



# 3 これからの 都市計画コンサルタント協会

一般社団法人都市計画コンサルタント協会は、日本の人口と経済が成長を続け、急速な都市の拡大が進む1973年に設立されました。都市計画のコンサルタント業に取り組む企業を正会員として組織が構成され、主に実務的な観点から都市計画に関する調査や研究、技術の向上を目指したセミナーや講習、交流事業などに取り組んでいます。

時代の流れによって社会と都市の様相が大きく変化する中、協会が設立されて50年となる節目にあたり、今後の都市計画コンサルタントと協会のあり方を展望する新たな協会ビジョンを策定し、重点的に取り組んでいく内容を決定しました。ここではその概要をご紹介します。

# 都市計画コンサルタント協会の役割と今後の運営のあり方

## 1. 協会の役割

当協会の設立目的は、都市計画コンサルタントの「職能の確立」と「技術の向上」を図り、それを通じて都市計画コンサルタント業の健全な発展を図ること、そして、それをもって「都市計画の進歩発展に寄与する」ことであり、その基本的な理念は今も変わっていない。

原点に立ち返ってその意義を考えた時、以下の3つの使命を果たすことが我々の役割である。

### “都市計画コンサルタント業を営む企業・個人の団体として、仕事と働き手の未来を拓く”

- 都市計画コンサルタントの事業としての発展と会員企業の働き手の健全な就労環境を実現するため、事業開拓や開発、職能に関する認知度向上と普及啓発、労務環境の改善に努める。

### “都市計画実務の専門家集団として、その社会的な責務を全うする”

- 都市計画の実務を通じて社会に貢献していくため提案や提言、社会活動の実践など、実務の専門家だからこそできる行動により社会的な責務を全うする。

### “都市計画コンサルタントが集う場として、最高のサロンを提供する”

- コンサルタントにとって事業と経営の基盤である技術の向上を図るため、個々の企業では困難な成長に役立つ、レベルの高い研究や交流の機会を提供する。

当協会が設立された目的と理念は、

50年を経た今も変わっていません。

これからも、変わりゆく時代と社会、

そして都市のあり様に真摯に向き合い、

私たちの役割を問い続けながら、

協会運営のあり方を考えていきます。

## 2. 協会が乗り越えるべき課題

協会がその使命を果たしていくために、乗り越えるべき課題はさまざまある。現時点で特に大切なこととして、以下のような課題を挙げることができる。

### “会員企業の人的な資源がもつポテンシャルを最大限に引き出すこと”

- 当協会には、現在約100社の会員企業がいる。その会員企業の多種多様な能力をもつ都市計画の実務専門家こそが協会の財産である。コンサルタントとしての職能確立と技術の向上を図るためにも、実務者の協会活動への参加を積極的に促し、最大限に活かしていく必要がある。

### “効果的なプロモーションを行うこと”

- 都市計画コンサルタントという職能に対する認知度、当協会の知名度は決して高いとは言えない。社会に知ってもらい、必要性を感じてもらうための効果的なプロモーションが必要である。

### “協会の運営を持続可能で創造的なものとする”

- 協会がその使命を果たすためには、新たな挑戦も含めて、これまで以上に様々なことに取組んでいく必要がある。協会の運営も安定的に持続可能で、創造的な活動を支えられるものとしていかねばならない。

## 3. 求められる姿勢

協会が時代と社会に適応しながら、その役割を果たしていくうえで、以下のような点を自覚し取組みを進める必要がある。

### “急速に変化する時代への対応”

- 都市計画コンサルタントが扱っているのは、急速に変化を続ける社会そのものである。その中で、次々と出てくる新たな課題やテーマに進んで向き合い、答えを出すことに挑戦する姿勢が必要である。

### “多様な主体と柔軟に連携する”

- 時代の変化にあわせて都市計画コンサルタントの仕事内容も変化を続ける中で、他分野の専門家を含む多様な主体との連携がより一層重要となっている。団体、企業、個人を問わず多様な主体との連携を柔軟に図りながら、協会としての役割を果たすことが求められる。

# 都市計画コンサルタント協会が 今後重視する6つの活動



## 取組み—1

### 専門家としての職能プレゼンス向上と社会貢献

“個人に焦点を当てた仕事の魅力と  
プレゼンスのアピール”

“都市計画コンサルタントの  
社会的な意義についての情報発信”

“職能団体としての存在を  
認知してもらうための営業努力”

- 学生等にとって「なりたい」、若手実務者にとって「続けたい」と思える職業として認知されるよう、職能のプレゼンス向上を目指すとともに、職能を活かした社会貢献ができる環境を整備する。
- 職業人として魅力的なロールモデルがイメージできるよう、コンサルタントのパーソナリティに焦点を当てた仕事のアピールに注力する。
- 都市計画コンサルタントの仕事や役割についての社会的な認知度の向上に取り組む。

## 取組み—2

### 実務専門家集団としての 技術の継承と深化

“幹となる技術の着実な継承と深化”

“時代と社会の変化に対応した  
研究と技術開発”

- 都市計画で必要とされる技術やその応用において高度化・多様化が進む実情や、技術を駆使する総合力が求められる状況を踏まえて、その基礎と位置づけられる「都市計画の幹となる技術」の継承に取り組む。
- 時代や社会の急速な変化に対応するため、様々な分野や業界とも連携しながら新たな都市計画の技術に関する研究を行い、都市計画コンサルタントの継続的な技術開発と研鑽を支援する。

## 取組み—3

### 主体的・能動的に参加したく なる協会活動への改善

“活動に参加する個人の動機づけや  
充実感の向上につながる取組み”

“地方会員にも参加しやすい活動形態の検討”

“協会を身近に感じてもらう取組み”

- 協会活動に参加することが、協会と会員企業の双方にとって質の高いメリットを生み出せるよう、主体的・能動的に参加したくなる協会活動への改善に取り組む。
- 活動に参加する個人の動機づけや充実感の向上につながる取組みを進めるほか、日本全国どこからでも参加しやすい活動のあり方について検討を進める。また、より多くの会員企業が幅広く協会の活動に参加していくためのきっかけとして、協会の存在を身近に感じてもらうための取組みを進める。

都市計画コンサルタント協会が果たすべき役割を原点にかえて見つめなおし、乗り越えるべき課題と求められる姿勢を踏まえて、今後重視する活動の内容を決定しました。今後は、このビジョンの内容を具体化するための組織を協会内に設置し、取組みを推進していきます。

#### 取組み—4

## 「働き方」を憧れられる 仕事環境の追求

“会員企業のリテラシーの向上”

“多様な働き方についての  
実践的アプローチの模索”

- 都市計画コンサルタントとしての「働きやすさ+働きがい」の実現や、そのための魅力的な仕事環境づくりを支援する取組みを進める。
- 新しい働き方を支える就業環境の整備や制度の導入について、効果的な情報提供などを通じて会員企業のリテラシー向上を支援する。また、多様な働き方を通じて都市計画コンサルタントが社会に貢献していけるよう、その研究や試行的な実践に協会として取り組む。

#### 取組み—5

## 都市計画コンサルタントの業務環境改善の牽引

“受注および業務の遂行環境の改善に向けた取組み”

“適正なプロポーザル・競争入札の実施に向けた取組み”

“新しい企業の参入や新規分野への進出の  
支援による業界の活性化”

“都市計画コンサルタント業界の働き方改革に向けた  
発注者への働きかけ”

- 都市計画コンサルタントの業務環境改善として、関係団体とも協力しながら国や地方公共団体に働きかけるなど、業務発注方式の改善に一層強力に取り組む。また、都市計画コンサルタントの業界全体の働き方の改革にも引き続き取り組んでいく。
- 新しい企業の参入や新規分野への進出を支援することを通じて業界の活性化に取り組む。

#### 取組み—6

## 持続可能な協会活動の ための経営改善

“企画型業務を行える 事務局体制への改善”

“未来に向けた戦略的投資の実施”

“協会ビジョンの遂行に関するPDCAの実施”

- 協会の活動をより創造性の高いものとしていくため、中期的な視点で協会の経営改善に取組み、企画型の業務を持続して行える体制を構築する。
- 未来に向けた戦略的投資として取り組む事業について検討し、予算枠の確保と適切な期間設定によって実施していく。
- 協会ビジョンの実現に向け、実行体制の構築、ロードマップの作成、取組み成果の評価と改善などに着実に取組み、必要に応じたビジョンの更新を行っていく。

# 都市計画コンサルタントの 今とこれから

## ビジョンの策定に当たってご意見をいただいた方々

順不同・敬称略 所属等は2023年3月現在

森本章倫 (公社)日本都市計画学会会長・ 早稲田大学理工学術院社会環境工学科教授	齊藤 博 (一社)東京建築士会理事
出口 敦 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	山本俊哉 (特非)日本都市計画家協会会長・明治大学理工学部建築学科教授
秋田典子 千葉大学大学院園芸学研究院教授	金清典広 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長
西植 博 (公財)都市計画協会業務執行理事	重松真理子 三菱地所株式会社都市計画企画部ユニットリーダー・ (一社)大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
藤塚 仁 (公財)都市計画協会調査研究部長	都市政策・ガイドライン部会長
黒木正郎 (一社)東京建築士会副会長	菊池雅彦 国土交通省大臣官房技術審議官(都市局担当)

## 委員会が主催したイベントでご意見をいただいた方々

### 都市計画コンサルタント「未来会議」

視聴者約130名

〈若手～中堅「これからの仕事と働き方の未来を語ろう」参加者〉

坂倉忠洋(安井建築設計事務所) 神谷貴浩(中央コンサルタンツ)

山崎慎也(オオバ) 竹村大河(オオバ)

松本彩花(エックス都市研究所)

〈中堅～管理職「どうする、どうなる我々の仕事」参加者〉

兼松正幸(URリンケージ) 佐藤恭子(協和コンサルタンツ)

中山裕太(昭和) 清水紀行(地域計画建築研究所)

田中富朗(エックス都市研究所)

### 都市計画コンサルタントの「未来を描くシンポジウム」

～これからの時代の都市計画コンサルタント 視聴者約150名

コーディネーター:中島直人(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授)

パネリスト:萩野一彦(ランドプランニング代表取締役)

河野有吾(エックス都市研究所主席研究員) 東 博暢(日本総合研究所研究員)

半田幸子(生活構造研究所代表取締役研究主幹)

### レジェンドインタビュー

小出和郎(都市環境研究所会長・都市計画コンサルタント協会会長)

三輪泰司(地域計画建築研究所名誉会長)

鳥栖那智夫(元日本都市総合研究所代表) ※故人

## 協会ビジョン検討特別委員会

委員長 西尾京介(ユニークエディションズ)

副委員長 菊地建生(市浦ハウジング&プランニング)

湯浅敦司(オオバ)

委員 井原友建(八州) 岡 亮介(エイト日本技術開発) 坂井信行(地域計画建築研究所)

實方理佐(都市環境研究所) 杉野卓史(安井建築設計事務所)

松本雅俊(パシフィックコンサルタンツ) 山下陽子(エックス都市研究所)

コアメンバー 雨宮知宏(昭和) 池戸漢(URリンケージ) 石黒啓介(日本工営都市空間)

篠崎弘晋(八千代エンジニアリング) 高田大稀(中央コンサルタンツ)

津守洋志(八州) 西香葉恵(URリンケージ) 村井美由紀(日建設計総合研究所)

発行 一般社団法人 都市計画コンサルタント協会

発行日 2023年4月

編集 協会ビジョン検討特別委員会 編集カイギ

デザイン 藪内新太

表紙イラスト 佐久間 茜

印刷 (株)平田印刷

# Information

## 都市計画コンサルタント協会 インフォメーション

### 協会の活動

当協会は、都市計画技術の向上並びに都市計画コンサルタント業務の健全な発展を図り、都市計画事業の進歩発展に寄与することを目的としております。

1. 都市計画コンサルタント業務の支援（業務活動の支援、業務活動の改善など）
2. 都市計画コンサルタント技術者の支援（資質・技術力の向上、信頼・評価の向上など）
3. 社会貢献に関する取り組み（都市計画を通じた地域貢献・社会貢献に係わる取り組みなど）
4. 関連団体との交流等（都市計画関連団体等との交流・連携、協会組織・活動の強化など）

>> 当協会へのご入会を希望される方は、こちらをご覧ください。

<https://www.toshicon.or.jp/meibo#nyukai>



### 認定都市プランナー

都市計画実務専門家を、専門性を明らかにしたうえで「都市プランナー」として認定し、都市計画業務の質的向上を図るとともに、都市計画コンサルタントの職能の確立と社会的地位の向上を図り、もって地域、社会経済状況に的確に対応した地域及び都市づくりに貢献することを目的としています。この制度は、令和3年2月に国土交通省登録資格に登録されました。



### ejob 事業

自治体から発注される都市計画コンサルタント業務について、受注コンサルタントの業務を当該発注自治体に評価していただき、優良と評価されたものをデータベースに登録・公開する事業（都市計画コンサルタント優良業務登録事業（通称:ejob 事業））で、コンサルタントの能力向上の動機付けと同時に自治体発注事務の利便向上を図ろうとするものです。



### 都市計画に関する講習会・研修会



都市計画コンサルタントの技術者等の資質、技術力の向上を図るため、都市計画に関する最新の情報の提供などを目的として、都市懇サロン、都市計画実務者講習会、ファシリテーター養成講座、技術者セミナーなどを毎年実施しています。また、(公社)日本都市計画学会と共同して都市計画の実務に係る発表会を開催しています。

### 都市計画に携わる技術者等の交流

実務経験の少ない若手社員に対して、都市計画に関わる様々な情報を通じて、技術者相互のネットワーク形成などを目的として、都市計画コンサルタント業務に従事する技術者等の交流会を開催しています。また、関西地区では有志による研究会を開催しています。



一般社団法人  
都市計画コンサルタント協会

2023年4月発行

